

「無作為抽出による市民会議」導入に関する
アンケート調査の結果概要
(速報)

2025年3月28日

早稲田大学 総合研究機構

参加のデザイン研究所

調査の目的

都市計画・まちづくり領域における市民参加の機会は次第に拡大してきているが、これまでの市民参加の対象者は関係団体の代表および公募の市民とするものがほとんどであった。それに対して近年は、一部の市民だけではなく、より幅広い市民の意見を収集する必要性が指摘され、そのひとつとして「無作為抽出による市民会議」が注目されるようになってきた。

そこで本研究では、全国の自治体における「無作為抽出による市民会議」の実施状況と「無作為抽出による市民会議」に関する自治体担当者の意見を把握するために、アンケート調査を実施した。

調査の方法

2025年1月6日（月）に、自治体に依頼文書とアンケートの具体的な質問項目を郵送し、回答はQRコードまたはURLから入力をしていただく方法を採用した。なお締め切りは、2025年1月25日（土）とした。

調査対象の自治体

調査対象とした自治体は、人口規模によって大きく7つに分類し、都道府県47、政令指定都市20、政令指定内行政区171、特別区23、中核市89、都市Ⅰ（人口10万人以上）152、都市Ⅱ（人口5万人以上）238、合計740自治体とした。なお、人口規模は2024年12月現在のe-Statデータによる。

アンケートの本文

本報告書の参考資料を参照。

回答の状況

回答総数は399（回答率53.9%）、自治体の7つの分類別の主な回答率は次頁の表のとおりである。なお、同一自治体の中で関係する複数課から回答があったため、回答数と自治体数は一致しない。政令指定都市の回答率は110%となっているのは、そのためである。

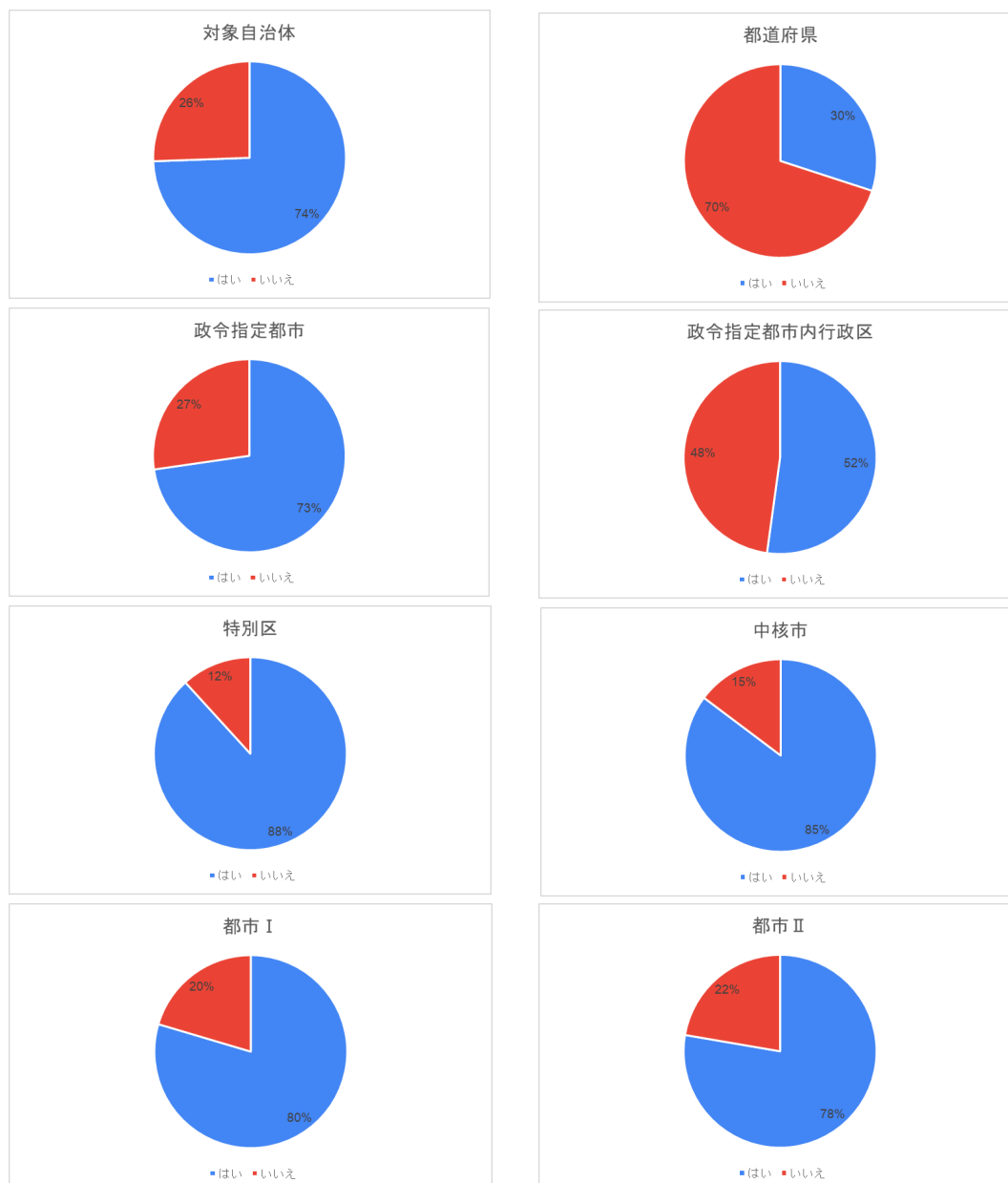
次頁以降に、主な質問に対する結果の概要を掲載する。

回答結果の一覧

	対象自治体	都道府県	政令指定都市	政令指定都市内行政区	特別区	中核市	都市Ⅰ	都市Ⅱ
対象数	740	47	20	171	23	89	152	238
回答数	399	30	22	23	17	72	87	148
回答率	53.9%	63.8%	110.0%	13.5%	73.9%	80.9%	57.2%	62.2%
Q1 市民参加のワークショップを実施したことがあるか	回答数 297 割合 74.4%	回答数 9 割合 30.0%	回答数 16 割合 72.7%	回答数 12 割合 52.2%	回答数 15 割合 88.2%	回答数 61 割合 84.7%	回答数 69 割合 79.3%	回答数 115 割合 77.7%
はい	102	21	6	11	2	11	18	33
いいえ								
Q2 今後、市民参加をもっと進めていくべきだと思うか	回答数 328 割合 82.2%	回答数 17 割合 56.7%	回答数 19 割合 86.4%	回答数 18 割合 78.3%	回答数 13 割合 76.5%	回答数 64 割合 88.9%	回答数 74 割合 85.1%	回答数 123 割合 83.1%
はい	8	2	0	3	1	1	1	0
いいえ	2	6.7%	0.0%	13.0%	5.9%	1.4%	0.0%	0.7%
どちらともいえない	61	11	3	4.3%	3	7	13	23
その他	2	0.0%	0.0%	4.3%	0.0%	0	0	1
Q3 これまで予定通りに進まない事業があったか	回答数 171 割合 42.9%	回答数 9 割合 30.0%	回答数 10 割合 45.5%	回答数 2 割合 8.7%	回答数 14 割合 82.4%	回答数 33 割合 45.8%	回答数 40 割合 46.0%	回答数 63 割合 42.6%
はい	228	21	12	21	3	39	47	85
いいえ								
Q4 「無作為抽出による市民会議」を知っているか	回答数 10 割合 2.5%	回答数 0 割合 0.0%	回答数 1 割合 4.5%	回答数 1 割合 4.3%	回答数 0 割合 0.0%	回答数 4 割合 5.6%	回答数 2 割合 2.3%	回答数 2 割合 1.4%
実施したことがある	1	0	0	0	0	0	1	0
聞いたことがあるが詳しくは知らない	178	10	12	26.1%	11	35	42	62
全く知らない	208	20	9	69.6%	6	32	42	83
その他	2	0	0	0.0%	0	1	0	1
Q6 「無作為抽出による市民会議」に関心はあるか	回答数 5 割合 1.3%	回答数 0 割合 0.0%	回答数 0 割合 0.0%	回答数 0 割合 0.0%	回答数 0 割合 0.0%	回答数 3 割合 4.2%	回答数 1 割合 1.1%	回答数 1 割合 0.7%
関心はあるが、まずは勉強してみたい	306	25	19	56.5%	15	57	69	108
関心はない	67	5	1	34.8%	2	6	13	32
その他	21	0	2	8.7%	0	6	4	7

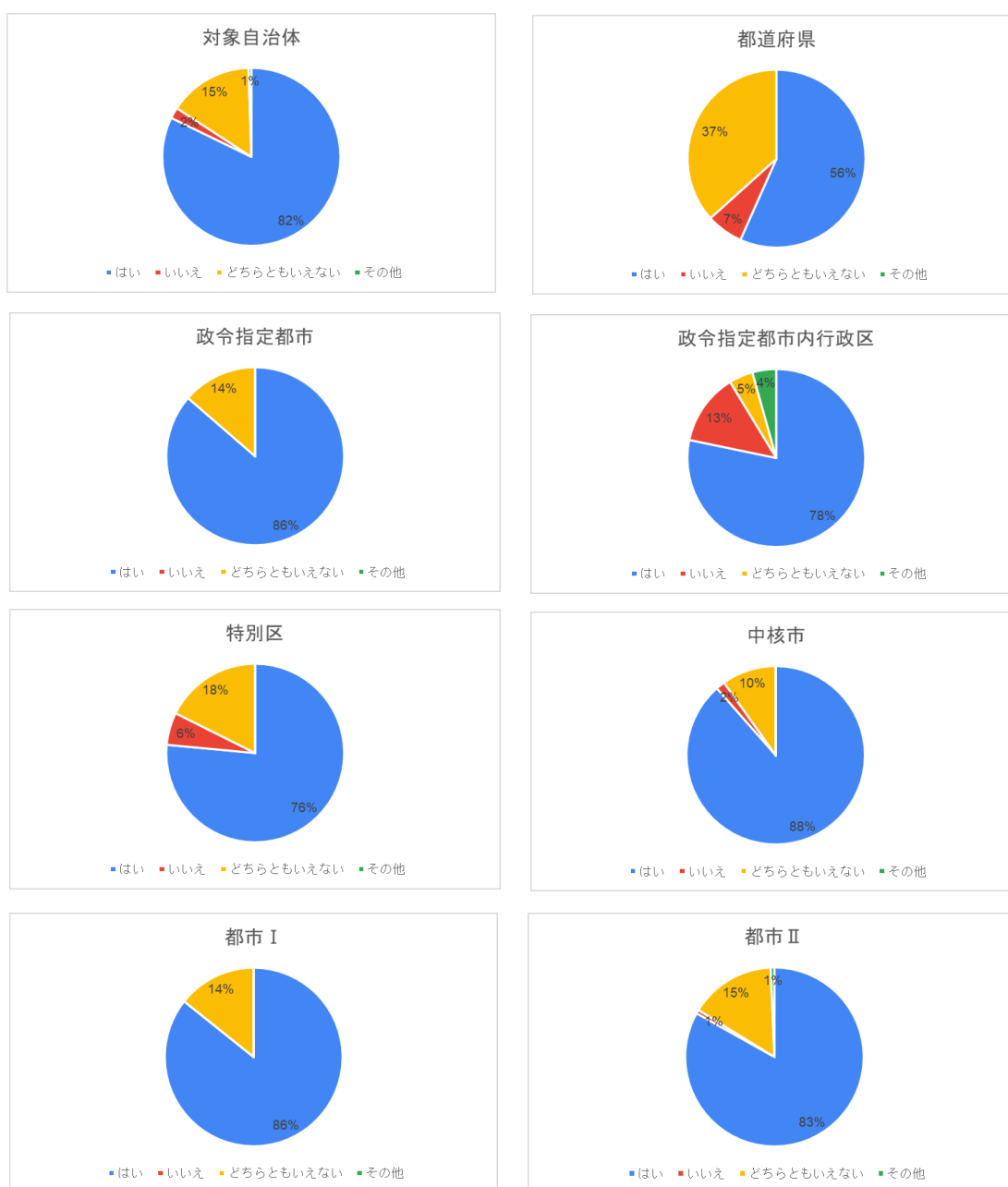
Q1 市民参加のワークショップを実施したことがあるか

・全体として 74.4%の自治体が、これまで市民参加のワークショップを実施したことがある。特別区、中核市では8割を超えているが、都道府県は30.0%と低い。



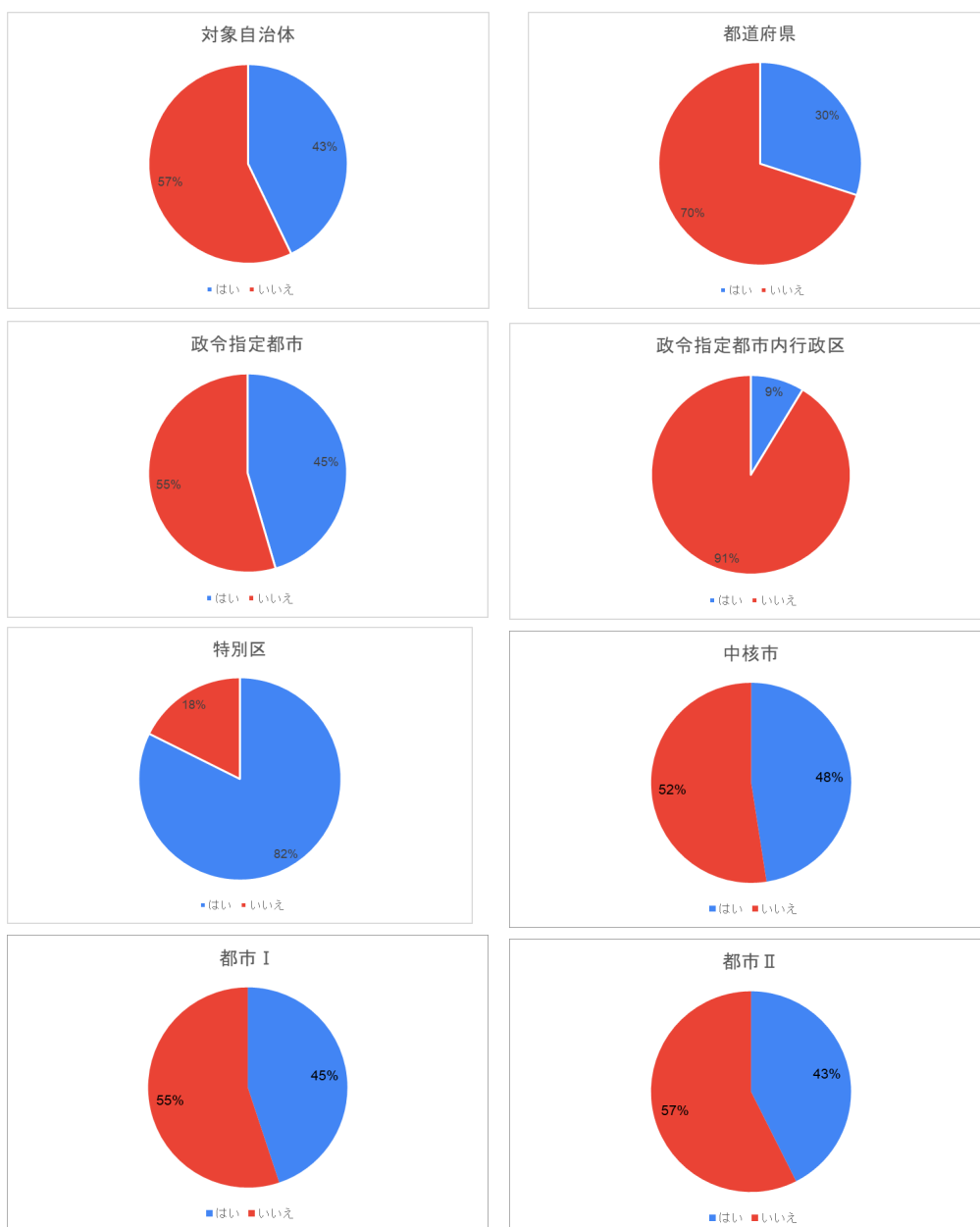
Q2 今後、市民参加をもっと進めていくべきだと思うか

- ・「もっと進めていくべき」と回答した自治体は、全体として82.2%と高い。
- ・Q1の「これまで市民参加を実施したか」の回答がわずか30%の都道府県において、56.7%が「今後実施していくべき」と回答している点が興味深い。なお行政区においても、52.2%から78.3%へと同様の傾向が見られる。
- ・逆に、Q1の「これまで市民参加を実施したか」の回答が88.2%と高い特別区において、「今後実施していくべき」と回答したのが76.5%と低くなっている点も興味深い。



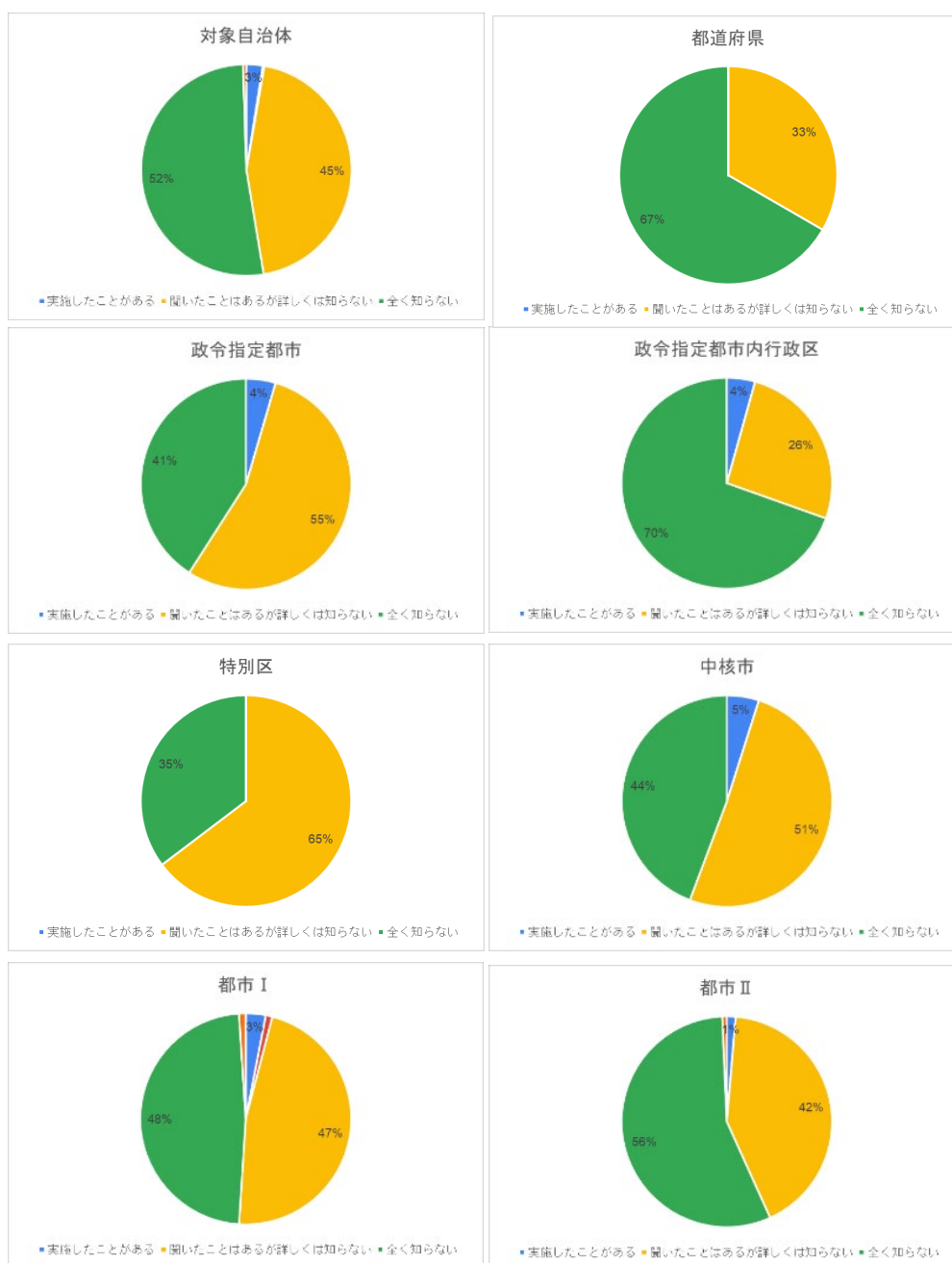
Q3 これまで計画が予定通りに進まない事業があったか

- ・42.9%の自治体で、計画事業が予定通りに進まなかったことがある。
- ・特に、特別区では82.4%と極めて高く、行政区ではわずか8.7%と低い。自治体間で大きな差がある。



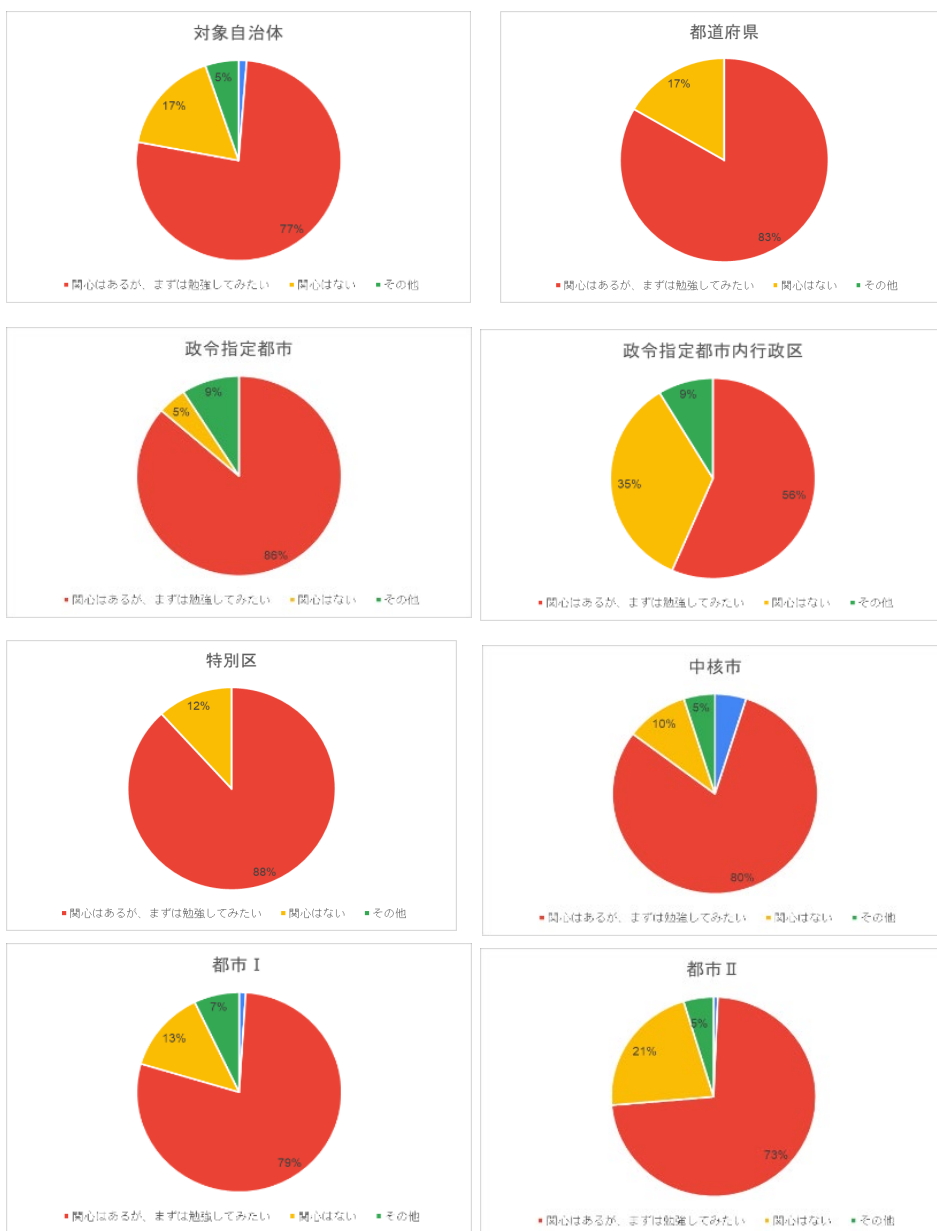
Q4 「無作為抽出による市民会議」を知っているか

- ・「無作為抽出市民会議」を実施したことがある自治体は 10、提案したことがある自治体は 1 と、両方を合わせても全体でわずか 2.8%に過ぎない。
- ・全体として聞いたことはあるが詳しく知らないは 44.6%、全く知らないは 52.1%である。
- ・認知度は全体として低いが、比較的高い自治体は中核市である。



Q6 「無作為抽出による市民会議」に関心はあるか

- ・全体として、78%の自治体に関心を示している。特に、政令指定都市（86.4%）と特別区（88.2%）の関心が高い。
- ・都道府県においても、83.3%が勉強してみたいという回答があり、関心は高い。
- ・3つの中核市からは、一度実施してみたいという積極的な回答があった。



Q7 「市民参加」、 「無作為抽出による市民会議」に関する自由なご意見、ご質問

・無作為抽出市民会議を実施した自治体（9）からは、「まちづくりの在り方を検討するに当たっては、大きな声を発しない、サイレントマジョリティーの意見を含めて把握することが重要」という回答があった。

・実施してみたいという自治体（5）からは、「『市民参加』は、参加市民に偏りがあったり、大きな声の人に左右される面がある。『無作為抽出による市民会議』は、裁判員制度に似ている要素もあるように感じた。参加者がそれなりの責任感を持って参加し、また、参加することで意識が変わるのではないかと思った。」という回答があった。

・その他の自治体からの意見は、(1) 肯定・期待と(2) 不安・懸念に分類して以下紹介する。なお、内容が重複する記述については割愛している。

(1) 肯定・期待

・活動やワークショップ・協議の場に市民参加・参画することは重要なことであり、時間はかかりますが行っていくべきことだと考えています。

・非常に先進的、民主的なアプローチだと思います。特定の派閥、立場の人間の意見だけでなく、多様な視点が反映されやすいまちづくりを実現することになるため、住民の高い満足度が得られると思われれます。

・ワークショップ等の参加者を募集すると、時間に余裕のある高齢者や関心の高い方しか応募がなく、メンバーが固定しがちです。子育て世代や若年層の意見も取り入れる良い方法があれば参考にしたいです。

・より広範な意見を集約するためには、日ごろ忙しい市民の方が気軽に意見を言える環境が必要であることから、街やまちづくりに興味関心を抱いていただくことに取り組んだ上で、心理的又は体力・時間的に負担のない方法を提案することが重要と考えます。

・公募で行った場合、集まる方の年齢層が高くなる傾向にあります。若い人の意見を集める良い方法を研究してください。

・都市計画に関する説明会やワークショップを開催しても参加者が少なく、こちらから特定の人に参加をお願いするような状況が多く参加者確保の労力が大きい。無作為で案内を出すことにより興味を持って出てくれる人がいれば非常に助かる。

・サイレントマジョリティーの意見聴取と、市民に判断してもらうための情報提供の工夫が知りたい。

・都市計画に興味関心や知識がある市民だけが集まったワークショップや市民会議では意見が偏ると思われるので、より最適な手法を引き続き検討していきたい。

(2) 不安、懸念

・無作為抽出とはいえ、反対意見の市民からは常に疑念が生じる。そのため、透明性の確保

を担保するオープン型での開催が余儀なくされる。また、対象者の母数ならびに興味の有無など無作為には多少のリスクが生じると考えられます。なお、このような疑念の解消が可能であれば、本来は無作為の方がより偏重のない市民意見となり本来望ましいものと考えられます。

- ・関心がない市民もいるので無作為抽出だと、参加者が集まるか？ 意見がもらえるか？ 疑問に思う。また実際のまちでの活動・行動に繋がるか？ 疑問に思う。関心・思いのある人の参加、会議での議論が良いと思う。

- ・専門性の高い分野での判断において、無作為抽出された市民の判断のみに委ねることは、適正な判断となりえるのか課題がありそうである。また合議性の場合の欠点と言えるが、リスク・独創性・奇抜性を避け、無難なものに決着しやすい面もある。

- ・今日、住民ニーズが多様化しているので、このような手法により多様な住民の声を聞いていくことは必要だと思う。ただ、それによって最終判断が困難になることが懸念される。

- ・「無作為抽出による」ものである場合のワークショップに要する時間（長期化）や参加する市民の負担については大きなハードルであると感じている。

- ・専門的な知識が無い方の感情論や一般論的な意見に対してどのような対応をしていくのか、またはどのような影響があるのか懸念がある。反対派の方が声の大きいことが多々ある中、市民の対立構造やサイレントマジョリティーなどへの対策などが気になる。

- ・参加者への報酬が予算上ないと、市民の積極的な参加は期待しづらいとも考える。

- ・現状は、例えば一定の地域を対象にした説明会を開催しても、参加する人数はごく限られているので、無作為抽出をすることで参加人数が増える等のメリットがあれば良いかも知れないが、本来参加したかった人が無作為により抽出されないという市民側のデメリットもあり得ることから、判断が難しい。

- ・予算、時間の確保が必要、先進事例の研究が必要、ノウハウを持ったコンサル等の事業補助者が必要、意見の集約が困難。

- ・市民参加を否定することはないが、都市計画の個別の案件に対しては、その影響を受ける市民又は権利者はある程度限定的である。その案件に対して無作為抽出した市民の意見、議論をよりどころにすることが適切であるかは疑問に感じる。

- ・都市計画決定に係る内容は権利制限を伴うものであることから無作為抽出の市民による議論がなじまないものもあると考える。

- ・無作為で選んだ人にまともな意見が出てくるとは思えない。

参考資料 < アンケート本文 >

「無作為抽出による市民会議」導入に関するアンケート調査

該当する番号に○をするか、記入項目にご回答をお書きください。 ご回答は、以下のアドレスに入力いただくか、以下のQRコードをご利用ください。

■貴団体、担当部課系の名称： _____

■（差し支えがなければ）回答者のお名前； _____

<市民参加に関する質問 >

Q1.これまで都市計画・まちづくり分野で市民参加のワークショップを実施したことがありますか？

- ① はい（→Q1-1、Q1-2、Q1-3） ②いいえ

Q1-1それはどのような事業、計画に関するものですか？（複数回答も可）

- ① 都市計画・まちづくりマスタープランの策定、②地区計画の策定、③公共建築の計画設計（用途： _____）、④公園の計画設計、④道路の計画設計、⑤高齢者、障害者、こども等に関する諸計画、⑥その他（ _____）

Q1-2 そのワークショップに参加した市民はどのように選びましたか？（複数回答も可）

- ① 関係団体の代表、②公募市民、③無作為抽出の市民、⑤その他（ _____）

Q1-3 そのワークショップでうまくいかなかったことはありましたか？（複数回答も可）

- ① 時間が足りなかった、②市民があまり集まらなかった、③進行がうまくいかなかった、④予算が不足していた、⑤ない、⑥その他（ _____）

Q2 今後、市民参加をもっと進めていくべきだと思いますか？

- ① はい（→Q2-1） ②いいえ ③どちらともいえない（理由： _____）

Q2-1 そのためには、何が必要ですか？（複数回答も可）

- ① 法律や条例等の制定、②予算の確保、③時間の確保、④上司の理解、⑤首長、議会の理解、⑥市民参加を企画実施できる職員、⑦市民参加を進めるための技術手法のマニュアル等、⑧その他（ _____）

Q3.都市計画やまちづくりの現場で、市民の理解が得られない、あるいは反対運動等で計画が予定通りに進まない事業が、これまでありましたか？

- ① はい（→Q3-1、Q3-2） ②いいえ

Q3-1 それはどのような事業ですか？（複数回答も可）

- ① 区画整理事業、②再開発事業、③民間の開発事業、④道路事業、⑤公共建築の計画

設計(用途: _____)、⑥公園の計画設計、⑦その他(_____)

Q3-2 その際、どのように対応しましたか？

- ① 時間をかけて対話をしてうまく進んだ、②計画を中断した、③必要な事業だったので実施した、④その他(_____)

< 無作為抽出による市民会議に関する質問 >

*すみませんが、参考資料2と参考資料3をご覧ください、ご回答ください。

Q4 「無作為抽出による市民会議」を知っていますか？

- ① 実施したことがある(→Q5)、②提案したことがある(→Q6)、③聞いたことはあるが詳しくは知らない(→Q6)、④全く知らない(→Q6)、⑤その他(_____)

Q5 実施した「無作為抽出による市民会議」の内容についてお聞きします。複数ある場合は、代表的なものについてご回答ください。

Q5-1 無作為抽出による市民会議の名称(_____)

Q5-2 市民会議を実施した年次と実施期間(西暦 _____ 年、期間: _____ 年 _____ ヶ月)

Q5-3 無作為抽出を選択した理由(複数回答も可)

- ① 市長の発案、②議会の提案、③専門家、関係団体の勧め、④多様な参加者の意見を集めるため、⑤他自治体に類似例があったため、⑥その他(_____)

Q5-4 実施にあたり、専門団体の協力を得ましたか？

- ① はい(どのような団体ですか? _____)、②いいえ

Q5-5 「無作為抽出による市民会議」実施に際して、課題はありましたか？

- ① あった(内容: _____)、② ない

Q6 「無作為抽出による市民会議」に関心はありますか？

- ① 関心があるので一度実施してみたい(Q6-1)、②関心はあるが、まずは勉強してみたい、③関心はない、④その他(_____)

Q6-1 なぜ「無作為抽出による市民会議」を実施してみたいですか？(複数回答も可)

- ① 現在うまく進まない事業があるため、②多様な市民と議論をするため、③他自治体の事例があるため、④まだ具体的な考えはない、⑤その他(_____)

Q7 都市計画・まちづくりに関する「市民参加」、「無作為抽出による市民会議」に関して、自由にご意見、ご質問があれば自由にお書きください。

ご協力誠にありがとうございました。アンケート調査結果の送付を希望される場合は、以下にご連絡先をお書きください！

氏名: _____ メールアドレス: _____